

# 下北原発地点海域温排水等影響調査

## —潮間帯生物調査—

### (要 約)

永峰 文洋・天野 勝三・高橋 克成・橋本 勲・金田一拓志

#### 調 査 方 法

##### 1) 調 査 年 月 日

第1回：昭和54年8月8日～9日

第2回：昭和54年12月4日～5日

##### 2) 調 査 地 点

下北郡東通村白糠前浜から小田野沢までの間11kmの潮間帯9地点。

##### 3) 調 査 方 法

干潮時、砂浜地帯では方形枠（汀線では10cm×10cm×3cmで10回、中潮帯では30cm×30cm×5cmで10回、高潮帯では30cm×30cm×10cmで1回採取）を使用して砂と共に生物を採取し、1mm目の篩上に残った生物について種類毎の個体数を計数した。岩礁地帯では写真・肉眼観察後、50cm×50cm枠により枠取りを行い、採集生物を分類・計数した。ただし海藻類については湿重量を測定した。

#### 調 査 結 果

- 1) 砂浜地帯では8月にはおよそ10種類7,276個体、12月には5種類989個体の動物が採集された。優占種は8月ではシキシマフクロアミ（91.4%）、ヒメスナホリムシ（8.2%）、12月ではヒメスナホリムシ（64.5%）、シキシマフクロアミ（27.4%）、ニホンコツブムシ（7.8%）となっていた。

分布傾向は前年度までの調査結果と大差がなかった。

- 2) 岩礁地帯では多くの種類の動物類・海藻類が見られた。このうちではイガイ類、フジツボ類、ヨコエビ類、多毛類、石灰藻類、フジマツモ類、ウミトラノオなどが卓越していたが、他に非常に多数の極小貝類（巻貝・二枚貝）が採集された。

有用海藻類としては、フクロフノリ、チガイソ、テングサ類などが見られているが、量的にはあまり多くはなかった。



詳細については「昭和54年度下北原発地点温排水等影響調査結果報告書」として印刷される予定。